

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	医療法人社団信診連 グループホームあったか家	評価実施年月日	平成20年1月31日
評価実施構成員氏名	田中 大町 馬木 伊藤	平田 岡本 村上	
記録者氏名	田中 真一	記録年月日	平成20年1月31日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>入居者の開放的な暮らし、ぬくもりを感じる家庭的な雰囲気作り、近隣の方々とのふれあいを目指し、その人らしさを尊重して能力を活かし生きがいを感じながら、住み慣れた地域の中で暮らし続ける支援をすることを理念に掲げている。</p>	<p>常に理念に基づいたサービス提供を活かしていきたい。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>各職員が、日常的ケアの中で理念を実践できるように、ミーティング等においてお互いの意見交換をしてケアプランに理念が反映されているかを確認しながら取り組んでいる。</p>	<p>理念を理解し共有していくため、継続してミーティング等で理念を確認し合い徹底を図っていきたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>家族には、入居前後に説明しており、パンフレット・広報誌等にも記載している。また、面会時等にもケアプランの説明と共に理解を得られるよう取り組んでいる。</p>	<p>地域の方々へ広報誌の発行や運営推進会議等を利用して理念を伝えていきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>散歩に出掛けた時等には挨拶を交わし、隣近所からいただいた食材等を食事に取り入れている。また、ホームの畑で収穫された野菜やいただき物の果物等を隣近所へおすそ分けする事などで交流に努めている。</p>	<p>気軽にホームの行事へ参加してもらい、いつでもホームに立ち寄りいただけるための環境作りに努めていきたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>自治会に加入しており入居者が回覧板を届けたり、町内清掃も一部出来る範囲で参加の努力をしている。</p>	<p>自治会行事の積極的な参加を心がけていきたい。</p>
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>地域のサークル活動等の依頼により勉強会の開催、地域学生の就学体験、研修医・研修生の受け入れを行っている。</p>	<p>広報誌を利用して高齢者の暮らしに役立つ情報を掲載する。依頼があれば地域の勉強会等にも積極的に参加したい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	全職員で評価に取り組む事で援助内容やケアの質の向上に努めている。	随時職員が自己評価・外部評価の内容を確認して、日頃のケアへ活かす事への意識をもてるように取り組んでいきたい。
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	参考意見をいただき職員間で情報を共有し、サービス向上のための体制作りに活かしている。	運営推進会議において、多彩な意見・情報交換ができるように、会議内容の充実を図っていきたい。
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	出来るだけ直接足を運び市町村担当者等と情報や不明な点を確認している。ホームの行事にも参加を呼びかけており、ホームの職員も市町村開催の講習会等に積極的に参加している。	地域貢献へ役立つため、市町村との連携が円滑にすすむよう努力していきたい。
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	利用者の中には活用した例はなく、勉強会は開催したが理解は不十分に思われる。	社会福祉協議会に研修の機会を要請している。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	適時、虐待防止などの研修会に参加した後に、勉強会を行い意識を持ち防止に努めている。	
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	契約時に書面・口頭にて十分に説明し、家族の理解を得ている。不明な点については、随時説明する対応を行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	管理者は毎月入居者と個別に面談する機会を設けており、職員は日頃の会話の中から情報を収集し、会議の中で共有して援助内容に取り入れ反映している。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	定期的に広報誌やケアプランを発送している。面会のある家族にはその都度ケアプランの説明や近況報告を行っている。緊急性がある場合は、随時電話報告も行っている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時に家族の意見を聞き、苦情・相談を話しやすい雰囲気作りを心がけている。意見箱を設置し配慮をしている。また、入居時に公的な相談機関を書面・口頭にて説明している。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者はミーティング等で個々の職員の意見を聞き入れ、会議等で職員の意向を伝えている。また、法人責任者が個別に面談する機会を設けている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	必要がある場合は随時会議を開催し調整のための検討を行っており対応している。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	入居者・職員の意向を踏まえ、入居者に影響がないように状態を把握し配慮しており、必要な場合に対応できる体制作りにも努めている。		離職者がいることで新任職員が馴染むまでには教育・指導の期間を要し、職員間の連携がままならない事も多い。今後は職員の固定化を図っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>研修の開催がある都度、職員が参加できる機会を設けている。法人内でも勉強会を実施しており、日々の業務の中でも指導を行っている。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>連絡協議会に参加し体制を作っており、情報交換・交流に努めている。</p>	<p>キャラバンメイトの登録を積極的に行いたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>個別に面談し状態を把握し、ストレス・悩みなどを軽減できる環境作りに取り組んでいる。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>職員の資格取得への支援を行っており、取得後に職場で活かせられる環境整備に努めている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>必要時には個々に面談しゆっくり話し合う機会を設けており、日々の業務の中で関わりながら本人の思いを受け止めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>家族と話し合う機会を常時設けており、十分に時間をかけ受け止める努力をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた時は、ニーズを見極め対応策を共に検討し、必要によっては他のサービスの説明を行い納得できるよう話し合いを行う事に努めている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	事前に本人・家族宅を必要なだけ訪問し納得を得るまで説明し、可能であれば施設見学により雰囲気をつかんでもらいながら、徐々に顔なじみを作っていくサービス開始へつなげるよう工夫している。		数日間のお試し入居を取り入れている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	運営理念に沿った援助を実践することが支え合う関係につながり、共に同じ時を過ごしながら「与える、そして与えられる」双方向の信頼関係作りを心がけている。		共に行う調理は職員も学ぶことが多く、更に入居者が活躍できる環境作りを取り組んでいきたい。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族とは本人の状況を常時報告し連絡しあい情報の共有に努めている。面会時に話し合うことで共に本人を支えていく協力体制作りに努めている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族の訪問の際は、ゆっくり一緒に過ごせる環境作りに配慮しており、行事などの家族の参加を随時呼びかけている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会時間などに特に制限は無く、いつでも気軽に立ち寄れる様に配慮している。ドライブなどの外出時は、馴染みの場所へ出掛け、行きつけの店も把握しており随時利用するよう心がけている。		継続して馴染みの場所や人に会える支援を行っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	個々に役割を分担し共同作業が出来るよう心がけている。レクリエーションなどは、皆で揃って行いお互いの相性などを踏まえて関われる配置も検討しながら努めている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用が終了した後も気軽に来訪できる体制を作っており、昼食やおやつを入居者と共に楽しめる環境を整えている。		町外の事業所へ移られた利用者への関わりも検討していきたい。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話や表情の中から本人の思いを把握するよう努めている。家族からも情報を聞き入れ本人の意向を検討している。		意思疎通の困難な利用者の意向をくみ取るため、日常生活の観察とアセスメントや家族の意向も反映していきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人や家族から情報を聴き、本人の日常生活からも読みとるように努力している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	介護記録を十分に残しサービス会議にて情報の共有をすることで、現状を把握出来るように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	センター方式の活用で本人の視点で意向を介護計画に反映している。更に具体的に事故予防計画とケース担当による個別援助計画にて随時カンファレンスを開催し職員間で検討し家族の意見も聞き入れるよう努めている。		本人や家族・医療関係者も含めた担当者会議の開催を目指していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	毎月のモニタリングにて必要があれば随時カンファレンスを行っている。期間の終了ごとに家族と話し合い介護計画の再検討を図っている。		月に3回職員ミーティングを行っており、本人に変化があれば即時見直し計画を検討していきたい。
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護計画に沿った援助の実行と結果を日常の介護記録に記入し情報を共有している。カンファレンスの際に記録を基に話し合いケアの見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	医師・看護師の定期訪問により身体不調の早期発見や処置、外来が必要な場合の連携が速やかに行われ本人・家族の負担が軽減されている。入院時の早期退院や終末期の支援体制が整っており、本人・家族の要望にも対応できるよう努めている。		運営推進会議において、グループホームを活かした地域貢献ができるよう検討していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	事前の警察へのSOSネットワークの相談、年1回の消防訓練、行事の際のボランティアの要請を行っており、幼稚園児の慰問活動や毎週の調理ボランティアの受け入れている。学生の就学体験やサークル活動などの見学を随時受け入れ対応している。		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	当法人の作業療法士によるリハビリ体操指導を定期的に受けている。デイケアサービスとの連携で行事やレクリエーションに参加させてもらっている。		
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要時に協力していただけるよう関係構築に努めており、運営推進会議に参加の際は相談を行っている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	当法人の医療機関との連携で定期的な採血の他、必要時には即時対応できる体制を整えている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	当法人の医療機関の医師が主治医になっており毎日訪問されており、職員との相談などにより随時指導を受けている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	当法人の医療機関より適時看護師が訪問し利用者の状態を把握しており、ホームの看護職員との連携を保ち支援できている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	当法人の医療機関の医師が主治医になっており、病院関係者との情報交換や入院時の連携体制を整えている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	ターミナルケアについての本人・家族の意向を入所時に書面にて確認し、状態の変化に応じて随時家族・医師との話し合いを設け方針を共有する事に努めている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人・家族の意向を尊重し最期までその人らしく暮らしていく為の支援を心がけ、医療機関との連携をとりながら事業所として出来る役割を把握して、チーム全体での支援体制を作り準備を整えており実績もある。		終末期に向けた方針について家族・医師と共に話し合いを行っており、今後も継続して支援して行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>本人・家族や移転先の事業所等と十分に話し合う機会を設け情報を提供し、馴染みの環境・人間関係に支障なく継続できるよう配慮している。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>ひとりひとりの尊厳を守る事を理念に掲げており、その人らしさを大切にしていくな実践している。また、職員は守秘義務を遵守する事に努めている。</p>		<p>個人情報保護法についての学習に取り組んでいきたい。</p>
<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者の対場に立って考え自己決定出来るような個々に合った声かけの工夫に取り組んでいる。</p>		
<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>利用者の希望を優先的に考え、ひとりひとりの日々の生活を大切にしていくなには、職員の日常業務を後回しにしなければならない事を踏まえて業務に取り組んでいる。</p>		<p>職員が利用者の要望をくみ取り、利用者が希望を言いやすい雰囲気作りを目指していきたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>利用者の行きつけの美容室へ出かけており、状態が悪く外出できない場合は先方から訪問してくれるよう協力体制が出来ている。身だしなみは利用者の意思を尊重し職員はさり気なく着こなしを援助している。また、外出時や行事などにはおしゃれに着替え化粧も楽しみ、家族は季節に合わせ随時衣替えを協力してくれている。</p>		<p>本人の好みを把握し、同じ衣類を何日も着ないようにさり気なくアドバイスするよう配慮していきたい。</p>
<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者の能力に合わせて職員が上手に働きかけ、また、本人の希望もあり自然に役割が分担され共に準備・片づけをしており、食事を楽しんでいる。</p>		<p>法人内の職員やボランティアの方々も食事を共にする事が継続していききたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人の好みを把握しており日常の食事・おやつに取り入れている。		現在はないが今後希望者がいる場合は飲酒・喫煙にも対応していきたい。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	利用者の排泄パターンを把握しており必要と思われる時間帯に誘導している。おむつの使用者も夜間のみにして、日中は紙パンツを使用しトイレでの排泄を支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴日・入浴時間はホームで取り決めさせてもらっているが、本人の意向を確認しており無理強いは避けている。入浴時間は希望に沿って変更の対応にも努めている。ボランティアより温泉を定期的に運んでいただいております、利用者も喜んで入浴できている。		毎日の入浴や起床時・就寝前の入浴希望にも対応できる体制を検討していきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中の生活リズムを整えるよう配慮し、起床・就寝時間、適度な運動、排泄のリズム、食事・水分摂取に心がけ、本人の自由に休息をしていただくも過度な昼寝も避けるよう支援している。夜間の不眠には、ホットミルクをすすめたり足浴を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	本人の生活歴や日常のようすから持っている力を把握し、発揮できる場を検討して役割の分担に配慮している。趣味活動にも、さりげなく職員が手助けしながら自由に楽しめるよう支援に努めている。		屋外での作業(野菜畑・花畑)が出来る利用者が徐々に減ってきており、今後は畑作業に代わる屋外での援助を検討していきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ホームで金銭管理をしているが、できる方には少額を所持してもらうなど状態に合った支援をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	夏期間は本人の希望に沿って歩行状態にかかわらず、散歩・日光浴・買い物・畑作業などを自由に楽しめるよう支援している。また、無理なく出来るだけ全員でドライブに出かけられるように努めている。		冬期間の外出が困難であり機会が減りがちであるため、車輛を使用した買い物やドライブの機会を増やしていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	年間の季節行事(花見・夏祭り・紅葉見学・文化祭)に取り入れている。また、土地柄により観光地が多いため随時ドライブに出かける機会を設けるよう心がけている。		出身地が遠方の利用者の馴染みの場所へ出かける機会や家族と同行の小旅行を検討したい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	家族からの贈り物があった時は本人から電話にて礼を言う手助けをしている。自ら希望があった場合も同様である。年賀状は本人の写真付きで出来るだけ本人の自筆で送るよう支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族や知人が訪問した際は、ゆっくりくつろぎ談話ができるように居室や応接スペースを使用するよう促し配慮している。また、遠方からの訪問者が本人の居室や別室に宿泊できる体制も整えており気軽に活用されている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修会の参加やホーム内での勉強会の開催などで理解をしており実践している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	自由に入出りできる状況にあることで散歩や玄関掃除を利用者が行えており、職員は利用者の状況・行動を把握して安全に暮らせる支援に取り組んでいる。		継続して鍵をかけないケアに取り組み事故予防計画を実施し、利用者が安全に暮らせるよう支援していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	利用者の行動を目配りをし、適時の訪室で所在を把握する事で安全確認に努めている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	職員の役割分担で担当者を決めており、責任を持って管理し危険防止の取り組みをしている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	利用者個々の事故予防計画を立て実践しており、事故防止に取り組んでいる。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	職員はマニュアルを把握しており定期的にミーティング等で確認を行い、医師・看護師同席の勉強会にて指導を受けている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	マニュアル作成により連絡・避難体制の理解をしており、消防署指導による避難訓練を年1回実施している。		地域の方々の協力が得られるよう、働きかけていきたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	ケアプランや事故予防計画書にリスクについても援助計画を立てており、家族に十分起こり得るリスクを説明し理解を得られるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>		<p>内服薬を使わずに自然に排便ができるための食事の工夫や適切な運動療法を継続して学ぶため、医師・看護師・作業療法士と連携していきたい。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>台所周り・調理器具等は毎日消毒を行っており、食材は消費期限に留意し保管場所には十分注意をはらっている。衛生管理担当者がマニュアルに沿っての実践に努めている。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関まわりに季節の花(観葉植物・プランターなど)を置き、明るい雰囲気を保つ為毎日の掃除はかかさず行っている。スロープ・手すりを設置した安全性や傘立て・コート掛けの配慮にも工夫をしている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>出来るだけ利用者にとって心地よい音楽を流し、大きな音を出さないように注意をばらい、眩しすぎない自然な採光により落ち着いた環境を整えるように配慮をしている。ホーム内は季節を感じる事が出来るよう装飾に工夫をして居心地よく暮らせるように努めている。</p>		<p>装飾品に気を使いながら普通の家の雰囲気を損なわないように工夫したい。</p>
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>和室スペースに座りながら見やすい場所に写真や作品を掲示して自由に眺める事ができ、少人数で談笑したり昼寝をするなどのソファやテーブルの活用でゆっくり過ごせる場所の工夫をしている。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室の家具類は本人が使い慣れた馴染みの物を持ち込むよう働きかけており、家族との写真や本人の趣味の作品などを飾り、居心地よく過ごせる居室の環境作りに努めている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>清掃時に空気の入換えをしており、水回りは換気扇を使用している。トイレは消臭炭や芳香剤にて異臭の対策を行っている。暖房は職員が適時調節し冷房は使用せずに窓の開閉によって自然な温度・湿度の調整に配慮している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		



. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)  
 入居者ひとりひとりにあった援助をこころがけており、職員は入居者の状況を把握して随時本人の情報を共有し援助に活かせるよう努めている。  
 特に本人のやりたい事は自由に出来るように援助しており、その事で起こり得るリスクを踏まえカバー出来る為の支援体制作りを重視している。 医療機関(主治医・看護師)との連携が整っており、身体的疾患などの対応は24時間体制で受け入れ出来る事で、入居者・家族も安心して過ごす事が出来る。 季節の習わし・行事を大切にしており献立にも取り入れている(1月/おせち料理・七草粥～12月/年越しそば)また、食材も野菜畑で採れた食材を活かしている。